

～ デジタコや適性診断結果など ～

～ ドライバーや運転特性のデータと車両事故発生率との関係性を分析 ～

2019.3.29 00:10

愛知県トラック協会

大学との共同研究にて、運送事業者の車両事故の低減・未然防止を目的とした、デジタコデータや適性診断結果などドライバー自身やその運転特性と車両事故発生率との関係性について、データ分析を行いました。

事故発生率が高まる

- 50歳以上
- 連続走行時間が長い
- 夜の便より昼の便
- 速度オーバーを頻発

ドライバーの加齢に伴い事故発生率は高まる傾向があるとする結果が得られました。

よって経験の長さや技量の習熟度とは別の、意識的な注意喚起も必要であることがうかがえます。

また、連続走行時間の長さ、夜の便よりも昼の便、速度オーバー回数の多さとの関係性が高かったので、運行管理者は、配車を組む際には各ドライバー間の偏りを極力無くし、運行データを監視する際には、連続走行時間や速度オーバー回数を、とくに厳格に管理・指導していくべきだと考えられます。

年々深刻さを増しているドライバー不足は、絶対的な人員数の不足に加え、高齢化も進んでいます。

今回の分析結果では、加齢に応じて安全運転対策も変化させる必要性があり、それと共に、新たな担い手となる若年層のドライバー人材の採用と育成が急務であることを、改めて裏付けたといえます。

加えて昨今、デジタコや適性診断などのデータは、多くの運送事業者が保有していながら、その活用は極めて限定的であるのが実態です。